

特別支援教育実践マニュアル 保育園・幼稚園

<No.2>

特別支援教育実践マニュアル<No.2>を配布します。<No.1>に引き続き、園生活の様々な場面で見られる子どもの「気がかりな行動」(子どもにとっての困り感)、その行動の背景の理解に基づくサポートのマニュアルです。

特別支援教育の具体的な目標は個別指導計画の作成にあります。

このマニュアルの「困り感」の視点を出発点として子どものニーズをとらえ、どんな支援をしていったらよいかを考えるときの参考として活用していただけると幸いです。

「困り感」へのサポート

- 事例4** 虫のことはなんでも知っているが一人でその話ばかりしている
- 事例5** 友達のオモチャをいきなり取り上げてしまう
- 事例6** 先生が話をしてもボーッとされていて言われたことが分からない
- 事例7** ダメといわれるとすぐパンチが出てしまう

「困り感」からの子ども理解

これまで園児の示す「気がかりな行動」を「困った行動」、いわゆる「問題行動」として捉える傾向はなかったでしょうか。

特別支援教育においては、困っているのは本人自身であるという観点から、その子が抱く「困り感」をしっかりと受け止め、その理解に基づいたサポートの方法を提案します。

*「困り感」といっても、本人が困ったと思っているとは限りません。むしろ自覚のないままに、気がつくともそういう行動をとってしまうことも多いのです。

「困り感」へのサポートの実際

4 虫のことはなんでも知っているが、一人でその話ばかりしている

Dちゃんは虫が大好きで、先生でも分からないような珍しい虫の名前まで知っています。「虫博士」というくらいなので、自由遊びのときなど皆はいろいろな遊びをしているのに、Dちゃんはいつも一方的に虫の話ばかりしていて、お友達と会話になりません。

Dちゃんの困り感とは？

Dちゃんはまわりで友達が遊んでいるとき、その場の雰囲気や状況がつかめず困っているのかも知れません。それでよく知っている虫の話ばかりになってしまうのです。相手が興味があっても、相手の気持ちが分からず勝手に話し続けてしまうのではないのでしょうか。その場にあった行動が取れずに困っているのです。



サポートの方法

●得意なことを受け止める

得意な虫の話については先生もしっかり聞いてあげましょう。「すごいね、よく知ってるね」と感心し、皆にもDちゃんの優れているところを教えてあげましょう。

●まわりのことを解説する

まわりの友達が何をして遊んでいるのか一緒に見ながら解説してあげましょう。遊びのルールやごっこ遊びで皆がどんなつもりで遊んでいるのか隣で話してあげます。チャンスをみて皆の遊びに誘ってみましょう。

●まわりのお友達に声かけしてもらう

まわりのお友達には、Dちゃんに「このブロックであそぼ」など、遊びの内容を具体的に声かけしてもらうようにします。

5 友達のおもちゃをいきなり取り上げてしまう

年少のEちゃんは、すばしっこい動きでちょっと目を離すとすぐに見失ってしまうほどです。皆で手をつないで(Eちゃんには先生が手をつないで)公園に並んで出発したのですが、その途端手を振りほどいて道端の木の根元へ走って行ってしまいました。巣から出てくるアリさんを見つけたのです。何とか公園に着いたと思ったらあっという間に遊具に走って行ってしまいました。園庭遊びでも大好きな三輪車を見つけると年長のお兄さんが乗っているのに、取り上げようとしてけんかになってしまいます。

Eちゃんの困り感とは？

Eちゃんは好奇心旺盛で興味を持ったらもう体が動いてしまいます。それまでやっていたことはそっこのけになってしまい、その場のルールや約束事には関係なくやりたいことを始めてしまうのです。「～をやりたい」と思うとすぐ行動化してしまう、衝動のコントロールができないことに困っているのです。



サポートの方法

● タイミングよく適切な声かけを

その場に合った正しい行動が取れるように「手をつなごう」「～ちゃんのオモチャだね」「貸してって言おうね」「偉いね」など相手の目線で、短く、笑顔で声をかけてあげましょう。行動の前(予想される)、最中、直後とタイミングよく声かけします

● ほめることを基本に

やめさせる、指示する、注意する、叱る、というかわりになりがちです。意識的に正しい行動ができたときはもとより、この子なりの尺度で些細なことでも、少しでも衝動をコントロールする姿勢が見えたときなど、ほめることを指導の基本にしましょう。

● 共通理解の下で協力して

事前把握できない突発的な行動には、そばにいるどの先生でも同じ対応ができるよう「困り感」の共通理解を図っておきます。

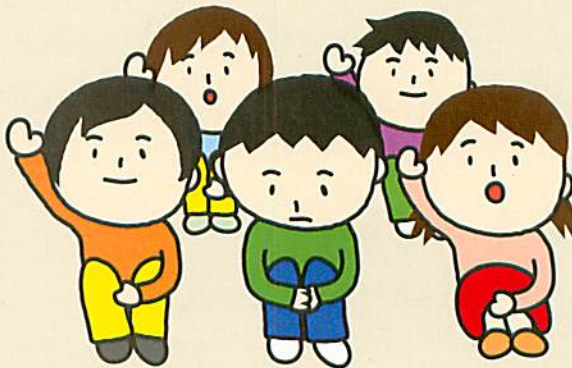
6

先生が話をしてもボーッとされていて言われたことが分からない

Fちゃんは、ふだん友達と遊んでいるときは特に問題なくおしゃべりできるのに、先生がクラスの皆に話したことがよく分かりません。一対一で説明すると理解できるのですが、集団の中に入ると指示が分からなかったり、ひとりボーッとしたりすることがしばしば見られます。

Fちゃんの困り感？

Fちゃんは集団の中に入ると状況がよくつかめず、何に注目したらよいのか分からないのかもしれませんが、先生の話も途中で気が散って指示が分からなくなってしまうのです。またことばだけだと情報がうまく処理できず、意味を聞き取ることができないのです。状況判断や話の意味がつかめず困っているのです。



サポートの方法

● 注意を引いてあげる

今はどこに集中したらよいのか分かるようにしてあげましょう。目を合わせて指示したり、名前を呼んだり合図しながら話をしてあげましょう。指示は短く、具体的にはっきり示してあげることも大切です。

● 指示を視覚化する

ことばの指示をできるだけ視覚化してあげましょう。ことばだけでなくカードや黒板に絵を描いて、理解をやすくします。一度に多くのことを指示しないようにしましょう。

● ほめてあげる

指示通りにできたときにはきちんとほめてあげましょう。できて当然ではなく、できたことを本人に伝え、ほめることで自信を持てるようにしてあげます。

7 注意されるとすぐカッとなり暴力が出てしまう

Gちゃんはやりたいことがあると、まわりがどうであろうと関係なくやり始めてしまいます。また友達とかかわるとき、たたいたり、砂をかけたりしてしまうので、何かとトラブルになってしまいます。時には廊下ですれ違いざまに友達を蹴ったり、友達の作ったブロックを壊してまわったりします。そうしてお友達に「ダメ」と言われるといきなりパンチが出てしまいます。

Gちゃんの困り感とは？

Gちゃんは、衝動的な動きをコントロールできないで困っているのかも知れません。また、たたいたり、砂をかけたりするのは友達と遊びたい気持ちをどう表現したらよいか分からなくて困っているのです。先生や親にもふだん注意されることが多く、友達のちょっとした否定的、批判的なことばに攻撃的に反応してしまうのです。



サポートの方法

●頭ごなしに叱らない

頭ごなしに叱るのではなく、行動の背景にある「困り感」に共感しながら、しかも毅然とした態度で危険な行動や友達を傷つける行動は許されないことを教えてあげましょう。

●コミュニケーション、ソーシャルスキルを教える

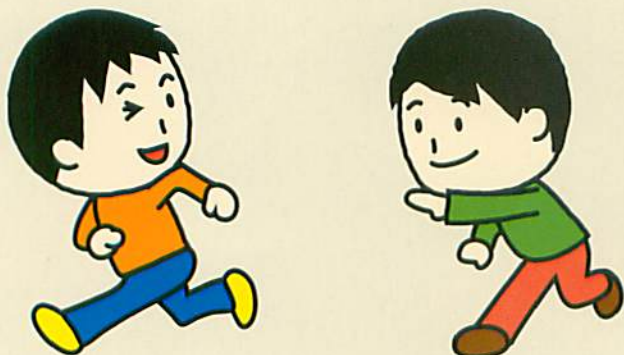
友達とのかかわり方や、どのようなことばかけをしたらよいかを具体的に教えてあげましょう。自分の気持ちや感情をどのように表現したら相手に伝わるのかを一緒に考えてあげます。

●興奮が静まるまで待つ

ひどい興奮状態のときは場所を変えるなどして、気持ちが静まるまで待つてあげましょう。落ち着いたところでトラブルの原因を一緒に話し合い、本人の気持ちや感情に共感しながら「どうしたらよかったのか」考えさせましょう。

●自己評価を低くさせない

周囲から注意されたり、叱られたりすることが多いので、自分は「ダメな子なんだ」という自己評価を低くしがちです。意識的に褒めることを多くして、自分も「できる」「OKなんだ」という自己肯定感を育てあげましょう。



まなびサポート事業

特別な教育的支援を必要とする子どもの学習環境を整え、より豊かな学校生活を実現できるよう支援していきます。

教育研究センター

381-7960・381-7961

まなびサポート相談室〈見明川中学校内〉

390-5204